学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報
今月のトピック紹介版

1月号

全国学力･学習状況調査結果公表
～具体的なアクションで学力向上を図る！（4）～

３学期の始まりは、子供たちが決意を新たに学習に取り組もうとするチャンスです。この思いを大切にし、また、４月の新学年への橋渡しとしても、学校全体で授業改善を確実に実践することが大切です。

「割合」の指導については過去10年間の継続した課題であり、下学年からの系統性を踏まえた指導についての全職員での共通理解や、子供にとって無理のない指導のプロセスの構想が求められています。本号では、単元全体を通じ、どこにつまずきのポイントがあるのかを明確にするとともに、子供にとって有効な支援について提案しています。具体の指導のプロセスを基に紹介していますので、３学期の校内授業研究や授業づくりにお役立てください。

叙述をもとに読み取り、教科の力を付ける学び合い

教科指導の根幹となるのは、子供に付けるべき資質・能力を確実に保障することであり、「活動あって学びなし」では本来の学習指導の目的を果たすことにはつながりません。本号では、国語科において「叙述を根拠とした読むことの指導」について具体的に提案しています。（「叙述をもとに、一人一人が自分の考えを持つことができるための支援」や「グループ活動の目的や１時間の学習の評価規準を子供同士が共有することができる学習展開」）国語科にかぎらず、全ての授業実践の手かがりとしてご活用下さい。

不登校の水際にいる児童生徒への初期対応が確実に行われるチーム学校

昨年度より「チーム西部地区生徒指導」を意識し、日々の生徒指導における困り感や具体的な取組について共有したり優れた実践に学び新たな一手を考案したりする場を設定しています。本年度第１回は「問題行動の初期対応」に焦点をあて、異校種でグループを編成し協議を行い、各学校のそれぞれの強みを生かしながら、生徒指導のコーディネート力向上を目指しました。

本号では、参加者のアイディアを基に「初期対応が着実に進んでいる学校の取組」や「個々の子供の状況を多角的に捉えた、組織的な対応の展開」について、掲載しています。３学期の全ての先生による取組や生徒指導の校内体制の確認にお役立てください。

全国学力・学習状況調査結果公表
～具体的なアクションで学力向上を図る！(4)～

先月に引き続き、今月も「割合」の指導について考えたいと思います。単に「もとにする量」や「比べる量」を探して公式にあてはめる指導ではなく、「割合」、「もとにする量」、「比べる量」の求め方や公式の意味がわかった…と実感できる指導が大切です。

つまずきの要因として想定できるのは…

■問題文の中から「もとにする量」と「比べる量」が何かを捉えにくい！　→基準は何かを判断する力
■問題場面を、関係を表す図や数直線などに表すことが難しい！　→数量関係を算数的に表現する力

「もとにする量（基準量）」や「比べる量（比較量）」を確実につかむことができる発問や支援のポイントは何かな？

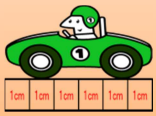
＜問題＞　5年生　啓林館（チャレンジ問題)P175 より
あゆみさんのクラスでアンケートをとったところ、算数が好きと答えた人は21人いました。
これは、クラス全体の人数の60%にあたるそうです。あゆみさんのクラスの人数は何人ですか。

ポイント①　問題場面を把握する活動を位置付ける

①問題を読む時に、量の感覚や大小関係を丁寧に扱う。
②問題文で聞かれていることを発問で整理する。「聞かれていることは何かな？」
③「もとにする量と比べる量」を示す言葉に、それぞれ色を変えて、アンダーラインを引くようにアドバイスする。

ココがポイント！！

☆割合の定義をもとに、数量関係を把握
「割合」とは、比べる量が、もとにする量の何倍にあたるかを表した数です。
21人　＝　全体の数　×0.6
☆「もとにする量」に関連するキーワードに着目
「定員の」「もとの(値段)」「～のうち」「全部で〇〇mです。このうち」
☆基準が何かを意識できるように系統的に指導
(例)数と計算：かけ算の学習　4(基準)の3倍　　量と測定：単位の学習で何を「もとになる大きさ＝1」にするか、測りたい量はそのいくつ分(何倍)にあたるのか。

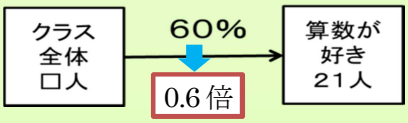


ポイント②　もとにする量は何か考え、問題場面を関係図で確認する

④「もとにする量」と「比べる量」を話合いで整理する。
⑤問題場面を関係図に整理しながら確認する。

「全体の人数」の６０%が、「算数が好き!」だから「もとにする量」を全体の人数にしたらいいと思います。

６０%は割合を整数で表したものだから、小数で表すと０．６になります。

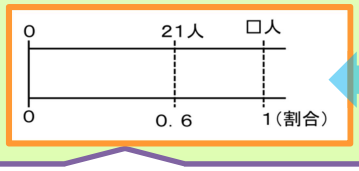


ポイント③　数量関係を表す数直線や式をかき、式や図の意味を考え、学び合う

⑥問題場面を数直線や式で表すようにアドバイスする。
⑦式や図の意味を話合いで整理する。

全体の人数を□として、０．６倍が２１人と考えよう。

◇数直線で、「もとにする量」を「1」ととらえ、図や式の表す意味を話合いで整理します。



□×0.6＝21
□＝21÷0.6
□＝35

この図の「１」のところを求めればいいと思います。

◇「小数÷小数」で1あたりの数量を求めた学習を振り返ることも有効です。

０．６倍なのに、なぜ、わり算をするのですか？図を使って説明できますか？

なぜ、□がクラス全体の人数になりますか？問題文のどこから分かりますか？

適用問題で評価

◇何よりもこの時間を確保する授業構成が大切です。

＜評価のポイント＞
① 一人一人が自分の力で問題を解くことができているかの見極め
② 一人でできていない場合 、何につまずいているかの見極め
③ 一人で十分にできている場合 、子供をさらに伸ばす支援

叙述をもとに読み取り、教科の力を付ける学び合い

日々の授業の中で、様々な形で設定されている「学び合いの時間」ですが、なんとなく話し合いをしているだけで教科の力に結びついていないと感じることはありませんか？本号では、国語の説明文の学習を例に「叙述をもとに読み取り、教科の力を付ける学び合い」を活性化するポイントについて掲載します。

２年生：「動物のひみつクイズをつくろう」（中核教材　ビーバーの大工事）
目標：動物クイズをつくるために、選んだ動物の体の特徴や行動について大事な言葉や文を選ぶことができる。【C読むこと（1）イ・エ】

ポイント①　叙述をもとに、一人一人が自分の考えをもつ　学び合い成立の大前提！

ただクイズをつくるだけでは、叙述にもとづいた読み取りができているかどうかの見取りが難しいな。

クイズをつくる前に、まずは**クイズに必要な文に線を引く活動**を取り入れ、どの叙述を根拠にしているのかを把握しましょう。

見取りは全体から！

- するべきことが分かっているか。
- 文に線を引くことができているか。

全体の達成状況の見取り

必要に応じて全体指示・確認

- 線を引いている場所が適切か。
- 選んだ文から問題文をつくることができるか。

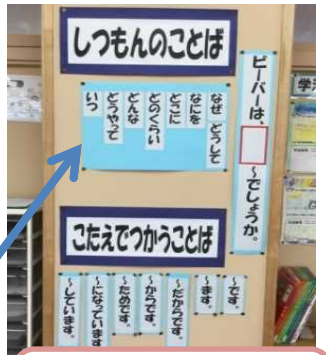
個別の見取り・支援

おもしろいクイズができた！早く聞いてほしいな。みんながつくったクイズも聞きたいな！
「伝えたい」「比べたい」
→学び合いへの意欲

全員が確実に問題文をつくることができるよう、適切な支援を！

Cと評価される子供の反応（●）と支援（※）

●クイズに必要な文を見つけることができない。
※選んだ動物だけがもっている体や行動の特徴を表す言葉を叙述から探し、丸で囲むように支援する。
●クイズの問題文をつくることができない。
※掲示物を参考にしながら、大事な言葉や文にぴったり合う「しつもんのことば」を見つけることができるように支援する。



〇〇さんは、選んだ動物の特徴を一番よく表している文を選んで問題文を作っているよ。私も、もう一度読み直してみよう。**→新しい発見・新しい自分に出会える喜び**

もっとみんなと交流したいな！
→学び合いの活性化

ポイント②　ペア・グループ活動の目的を明確にし、評価の規準を子供と共有する

グループで聞き合って、１年生に楽しんでもらえるクイズをつくりましょう。**←活動の目的の明確化**
「１年生が楽しめるクイズ」とは、どんなクイズでしょうか。

- 何を聞かれているのかがはっきりしているクイズだといいな。 **５Ｗ１Ｈの意識**
- １年生でも１回聞けば覚えられる長さのクイズがいいよ。 **要約する能力**
- それぞれの動物の特徴がよく分かるクイズがいいよ。 **目的に応じて読み取る能力**

「聞かれていることが明確」「適切な長さ」「その動物の特徴が分かる」クイズがいいのですね。 **←評価規準の共有**

Ａ：私は、「ビーバーが巣をつくるための木を切るときに使うかたくて大きな歯は、何に似ているでしょうか。」にしたよ。どうかな。
Ｂ：ちょっと長いから、「巣をつくるための」は取ってもいいんじゃないかな？
Ａ：このクイズで大事なのは歯のことだから、木のことはくわしく説明しなくてもいいね。じゃあ、「**ビーバーが木を切るときに使うかたくて大きな歯は、何に似ているでしょうか。**」にするね。

他者と話しながら考える、考えながら話すことを通して、教科のねらいにせまっていく。

学び合いを通して、一人一人が文章の中から大事な言葉や文を選んで問題文がつくれるようになれば、教科の力が付いたといえます。

クイズづくりは相手意識をもちやすく、子供たちが興味関心をもって活動に取り組むことができるという利点があります。しかし、なんとなくクイズをつくるだけでは、教科の力は身に付きません。クイズの問題文をつくるために何度も叙述を読んだり、叙述をもとにクイズの内容について検討したりするからこそ、「目的に応じて文章の要旨を読み取る能力」「文章の中からクイズに必要な文や言葉を引用したり要約したりする能力」「文頭・文末を意識して問いの文をつくる能力」などを身に付けることができるのです。国語でクイズづくりに取り組む場合は、身に付けるべき教科の力を明確にしながら単元を構想する必要があります。

不登校の水際にいる児童生徒への初期対応が確実に行われるチーム学校

お役立ち情報H２９．１月号
西部教育局

第1回 西部地区 生徒指導担当者等 連携交流会

西部教育局では、昨年度より**西部地区生徒指導担当者等連携交流会**を実施しています。本交流会は、日頃の取組の実情や困り感等についての気軽な意見交換や、発生頻度やリスクの高い事例についての演習をとおして、西部地区の小中学校の生徒指導担当の先生方が「チーム生徒指導」としてつながり、自校での実践の充実が一層図られることを目的としています。

第１回の交流会（11月）では「不登校への初期対応」をテーマに、異校種混合グループで意見交換を行いました。事例研究や生徒指導担当としてのコーディネートのあり方について、それぞれの校種の視点を生かした熱心な協議が行われました。

～初期対応を確実に行うための2つのPoint～

Point①　；想像力を働かせて子供の状況を想定しましょう！

事例研究　その1

＜こんなときどう対応しますか？＞
・インフルエンザで、小学校1年生の児童が1週間学校を欠席すると連絡が入った。

・今度学校に行く時がとても不安だ。
・友達が待っていてくれるかな？
・勉強についていけるかな？
・今日は学校で何があっただろう。
・毎日みんなは何しているかな？
・〇〇さんと早く遊びたいな。

事例研究　その2

＜こんなときどう対応しますか？＞
・中学校1年生の生徒の遅刻が最近多く、保健室に行きたがる。

・教室にいても楽しくないな。
・保健室の方が居心地がいい。
・部活が面白くないな。
・早く休みの日にならないかな。
・勉強が難しい、わからない。
・親がいろいろうるさい。

気付き・想像

Point②　；想定される子供の状況を「チーム学校」で共有し、実態に合った対応を確実に実践しましょう！

＜効果的な手立て（事例1）＞
・機をとらえた家庭連絡や家庭訪問をする。
・欠席中の学習内容を伝える。
・友達のメッセージを届ける。
・登校した際に楽しい活動を予定する。
・欠席している子供の気持ちを想像し、登校した時にどんなふうにしてもらうと安心したりうれしかったりするのかについて学級で考える学習を設定する。
・園での様子を聞き取り、これまでの状況を把握する。
・久しぶりの登校にあたっての対応を職員朝会等で全職員に周知する。

効果的な対応

＜効果的な手立て（事例2）＞
・指導ではなく受容からのスタートで丁寧な聞き取りを行う。
・多様な立場の関係者（級外やSC、SSW等）が関わる。
・保護者と関わり、家庭での様子を把握するとともに、保護者の不安や困り感に寄り添う。
・他の子供からの情報収集を行う。
・学級や集団の力を生かした効果的な関わりを設定する。

「不登校はどの子供にも起こりうる」という意識を持ち、「チーム学校」で日常的に子供理解や学級づくりが実践されることが大切です！

生徒指導担当として「チーム学校」の動きをコーディネートする

＜課題＞
・生徒指導担当が問題を抱え込んでしまう。
・担任一人で問題を抱え込んでしまう。

→

＜改善策＞
・不登校担当教員や養護教諭等との連携を図る。
・中学校のシステムを小学校でも導入する。
（学年単位や低・中・高学年単位による生徒指導部会の実施等）
・保幼小連携の視点を持ち関係者がつながる（小中連携と同様なシステムの確立）
→子供の育ちを連続して見つめていくことでチーム力を高める

次回の交流会は2月16日（木）です。お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。